



～年間聖句～「だから、キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです。古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた。」コリントの信徒への手紙Ⅱ 5章17節

カッコいい人になろう

みなさんは、次の学年への「O学期」として準備を始めていると思います。まずは、今の自分のあり方・生き方について勇気をもった自己点検をしてほしいと思います。

実は、この「カッコいい人になろう」という話は、5年前、私が本校に赴任して最初に先生たちに話したことです。

私は、この学校を、みなさんが「自分の成長につながる学校」と思ってもらえるようにしていきたいと思っています。でもみなさんも、自分のいる学校は自分で、自分たちでつくるという意識をもたなくてはならないと思います。なぜ？そうじゃないと、私は、みなさんが「カッコいい人」になっているという気になれないからです。2学期の終わりに、「守られている間に、守る力を」という話をしたと思います。このことも「カッコいい人になろう」につながる話になります。

ずいぶん前ですが、私が社会に出たとき、「カッコいい」と感じた大人や、活躍している人は、年齢、性別、役職、学歴などにかかわらず、「自分のことばかりではなく、まわりの人のことを考えられる人」や、「前例がなくても『やったらできた』と考えられる人」だったように思います。その反面、「指示されたことしかやりたくない」「やってもどうせ無駄」「自分がよければそれでいい」と考えている大人もいて、そのタイプには全く魅力を感じなかったことをおぼえています。

なぜ、このように考え方に大きな差があるのだろうと考えた結果、それまでの人生の「やっただけ」という経験や、「自分なりの考えをまわりから認められた経験」の量が要因ではないかと思いました。カッコ悪い人は口先だけの人が多く、だからみなさんには「まずはやってみる」マインドを持ってほしいと思っています。

私は、みなさんに「カッコいい人」になってもらいたい。そのためには、上に書いたように、いかにいろいろな経験を積むのが重要になります。

実は、このことは“今”の教育改革に通じています。

“今”の時代背景として、大学入試では「自分の考え方を立案し、表現する力」を重視する流れが急速に進んでいます。一方、「高校生の生活と意識に関する調査報告書」（独立行政法人国立青少年教育振興機関）では、多くの生徒が「自分はダメな人間だ」「人の意見に流されやすい」と自分をネガティブに捉えている傾向にあるというデータが出ています。新しい時代に求められる「自分の考えを組み立て、表現する力」を育むために、高校では「総合的な探究の時間」がつけられ、その主体的・協働的な研究の成果を入試でも活用されるようになっていきます。

次の社会が次の世代に求める力・・・これは、「カッコいい人」につながっています。みなさんの学習活動も「自分の意見を考え、伝える」経験値を上げていくことと、それに対して「まわりから良い反応を得る」という成功体験を手に入れることが、みなさんの可能性を広げ、先の未来を強く生きる力につながると考えます。

私は、よく生徒に対し、「自分が選んだ道を正解にする力」という話をします。みなさんが進路選択するときにも思い出してほしい言葉です。「正解にするためにどう考え、どう行動する？」ということをも自分自身に問うのです。

大切な考え方は、あらゆる能力が身に付いて、条件が整ったから挑戦できるのではなく、挑戦するから能力が身に付き、条件を整えることができるということなのです。これが、「自分が選んだ道を成果にする力」であり、「カッコいい人」なのです。

（学校長 重枝 一郎）